

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070901188		
法人名	株式会社 エイ・シー・エス		
事業所名	グループホーム 花みず木		
所在地	〒812-0857 福岡県福岡市博多区西月隈3丁目3番54号 Tel 092-432-5511		
自己評価作成日	令和6年07月07日	評価結果確定日	令和7年01月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム花みず木は設立当初から、郊外レクリーションに力を入れ実践しております。過去には熊本、佐賀、大分などにも出かけたり、一泊二日の旅行にも出かけておりました。認知症になってもサポートがあればどこへでも行くことが出来るホームです。また、併設施設の「山ぼうし」「さくらの樹」の三施設で餅つきを行ったり、近所の保育園児のダンスなど豊富に催しを行っています。勤務スタッフはチームワークをモットーに、介護が未経験なスタッフもホームで研修やサポートしながらスタッフ全員で日々、認知症の方々の支援に取り組んでいます。その他、医療面では、緊急時にはすぐに提携している訪問診療医が駆けつけ見てくださいますので安心して生活が出来ます。また、看取りも行ってあります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和6年08月09日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福岡市博多区の利便性の良い都市部に21年前に開設した、住宅型・介護付き有料老人ホーム、ヘルパーステーション併設の定員18名のグループホームである。「快適な介護を提供する」を理念として、アットホームな雰囲気の中で利用者一人ひとりの思いに寄り添い、1日1回は笑顔が見られるようにとの思いで職員は日々の介護サービスに取り組んでいる。ホーム協力医による月2回の往診と病院看護師、併設施設の看護師、介護職員の連携で24時間安心の医療体制が整い、看取りも行っている。長く勤めるベテラン職員を中心に子育て世代も働きやすい環境を整え、助け合える関係の中で長く勤める職員が多い。また、技能実習生を積極的に採用し、その人柄や働きぶりに利用者や家族の評価も高い。当たり前に地域に溶け込む暮らしを目指して外出レクリエーションに力を入れて取り組み、山笠見物や外食、長崎平和公園まで足を延ばす等して利用者に大変喜ばれている。職員手作りの食事、週3回の入浴、毎日の室内レクリエーションや外出レクリエーションの充実を図り、その行き届いたケアに利用者や家族からの信頼も厚い、「グループホーム 花みず木」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、1月には理念、倫理の研修を行っている。テスト形式で研修を行い、自身が理念の理解度の確認や入居者のケアについても理念を基本に支援できるように研修を行っている。	法人理念をホームの見やすい場所に掲示し、年度毎に基本方針を策定し、それに基づき職員は個人目標を立て半年毎の自己評価、施設長との個人面談で振り返りを行っている。毎年1回は理念についての研修を行い、新人職員には施設長自ら声掛けし、理念の周知、共有に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域周辺は会社や工場も多く、地域住民が少ない所であるが、町内清掃などに参加したり、回覧板にて地域の情報を知り交流を図っている。	町内会に加入し、4月に行われる町内の総会への参加や毎月の町内清掃には職員が参加し、そこでの交流を通じてグループホームや認知症の啓発に取り組んでいる。また、民生委員からの紹介で近隣保育園児が来訪し、ソーラン節を披露する等の交流も少しずつ始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議で、認知症の症状などを話し理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議で外部評価の結果報告を行い、施設状況を知って頂き、今後の取り組みを議題にしている。	町内会会長、民生委員会長、民生委員、地域包括支援センター職員、つつみクリニック、家族に声を掛け、2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。「花みず木の現状や認知症について」等、毎回議題を決めて話し合い、各委員から質問や意見、情報提供を受け、出された意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議にも包括に参加頂き、その際に相談などを行っている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの状況を伝え、アドバイスや情報提供を受けている。管理者は、ホームの利用状況や事故報告を行政担当窓口に行い、疑問点や困難事例を相談する等、行政と協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を2回行い、拘束がなぜいけないのか？なぜ拘束をしてしまうのかを話し合い、拘束しないケアの意見を汲み業務改善、ケアの工夫などを行っている。	内部研修の中で、身体拘束が利用者に及ぼす弊害について職員間で話し合い、禁止行為の具体的な事例を挙げて検証し、言葉遣いや対応に注意して、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。幹部会議を3ヶ月毎に開催し、身体拘束について確認を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、ニュースなどで取り上げていたことを話し合い、虐待になるかもしれない状況を作らない様に日頃からスタッフとのコミュニケーションや報道相を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援、成年後見制度について研修し活用している。	権利擁護の制度について、内部研修で学ぶ機会を設けている。制度に関する資料やパンフレットを用意し、必要時には、利用者や家族に内容や申請方法を説明し、制度活用に取り組んでいる。運営推進会議の中で、地域包括支援センター職員に、成年後見制度について講演の予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明、ホームに入居した時のリスクなどもしっかりと話をし同意、理解を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、11月に家族会を開催し、その際に意見などを述べて頂き、反映している。	新型コロナ5類移行に伴い、家族の面会制限を緩和し、居室で20分程度の面会が可能である。面会時や電話等で、家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、職員間で情報を共有し、ホーム運営や介護サービスに反映させている。毎月、「花だより」を家族に送付して利用者の様子を伝え、大変喜ばれている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回施設長と話す機会があるのでその時に意見を述べたり、幹部会でホーム内の問題点などを取り上げて話をしている。	毎月ユニット毎に職員ミーティングを開催し、利用者の状況やケアの内容、行事について等、活発な意見交換が行われている。職員全員で話し合い、出された意見や提案は幹部会議に挙げ、出来ることからホーム運営や業務改善に反映させている。また、半年毎に施設長と面談の機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時労務関係を把握し、スタッフ一人一人年に2回面接を行い、仕事に関する思いや、満足度、取り組み方などを聞いて、少しでも長く働いて頂けるように環境整備、報連相に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては、のびのびと勤務できるように研修を十分に行っている。	職員の募集や採用は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や働く意欲を優先している。採用後は内部や外部の研修参加や資格取得を奨励し、職員が向上心を持って働ける就労環境を目指している。管理者は、職員一人ひとりの能力や特技を把握し、適材適所に役割分担し、職員が能力を発揮して生き生きと働けるように配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権の研修、権利擁護などの研修を行い、理解でき、業務に努めるように指導している。	利用者の人権を尊重する介護サービスについて、職員会議や内部研修の中で話し合い、利用者からの声掛けに対して、業務を優先して後回しにできなかったか、利用者一人ひとりへの声掛けを振り返る等、具体的に利用者の人権を尊重することの難しさを共有しながら職員の意識づけを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人スタッフ一人一人に指導者をつけ、新人スタッフへこまめなケアや相談ができる体制、個人の力量に合わせた勤務を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症が5類に変更後も施設内で感染発症があった為、まだ同業者との交流は再開していない。サービスの向上を図るために、内部研修や、スタッフ間の情報共有、話し合い等を随時行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に十分に話し合い、本人の思いを生かしたプランを作成するように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の希望や要望を十分に聞き取りを行いスタッフへ伝達し、信頼関係の構築に努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスや望んでいること聞きケアに取り入れている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族や友人みたいな関係作りを行い、共に生活している雰囲気を提供している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連携を図り、本人を含めた話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく途切れない様に家族と協力しサポートしている	新型コロナ5類移行に伴い、条件付きの面会を再開し、馴染みの人との交流が途切れないよう支援している。感染予防対策を講じながら、利用者の行きたい場所への外出レクリエーションにも取り組んでいる。また、利用者がホームの中で楽しく過ごせるように、室内レクリエーションの充実に取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者関係をスタッフが理解し、入居者同士で関わっている時はそっと見守るようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去しても、関係性を続けていくように取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と十分に話を行い、プラン作成をしているが、困難なものについて家族に協力を仰いでいる。	職員は、日常会話の中から利用者の思いや意向を把握し、アセスメントに記録して職員間で情報を共有している。意向表出が困難な利用者については、家族に相談したり職員間で話し合い、職員が利用者に寄り添う中で、その表情や仕草から利用者の思いに近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活状況を聞き取り、生活環境や認知状態、健康状態を把握する為に、前ケアマネや関係者に十分に聞き取りを行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントをし、その人の状態に合わせた生活が出来る様支援している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時スタッフからの聞き取り、記録を理解し、各入居者担当者と十分に話し合っている。	担当職員は、利用者や家族とコミュニケーションを取りながら意見や要望、心配な事を聴き取り、カンファレンスで検討し、利用者本位の介護計画を6ヶ月から1年毎に作成している。モニタリングを毎月実施し、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランは見直しを含め情報の共有や実践状況を常日頃から話し合っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	工夫を行って取り組むように日々努力をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の保育園の園児のボランティアでダンスをして頂いたり、地域の町内清掃へ参加したりし、なるべく地域の方とふれあいが出来る様に支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは情報の共有、信頼関係を構築できるように日々努力している。	利用者や家族の希望を優先して主治医を決定し、現在は、利用者全員が月2回の往診体制が整っているホームドクターを主治医とし、病院の看護師、併設施設の看護師、介護職員が連携して、24時間利用者の体調管理を行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とも情報の共有、または相談やケアの工夫などの意見を聞いたりしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は常にSW、看護師と情報交換や共有を行い、早期の退院を目指して支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、看取り時に何度も看取りの方針を話し合い、末期状況でも最後の場所はどこで迎えるか等確認している。	利用者の重度化や終末期の方針について、ホームで出来る支援と出来ない支援を明確にしながら、利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化が進むと、家族や主治医と密に話し合い、医療的な措置が必要になるぎりぎりまで利用者が安心してホームで過ごせる支援に取り組んでいる。希望があり、条件が合えば看取りも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の研修を行ったり、ユーチューブにて応急手当の訓練などを見て学習している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域推進会議で議題に取り入れ意見を聞いたり、災害訓練の報告をしている	避難訓練を年2回実施し、風水害を想定した訓練も行っている。浸水をしたとの想定での訓練では1階の利用者9名を2階に移動する訓練を実施し、明らかになった課題について話し合い、改善に取り組んでいる。日頃から地域の方への協力をお願いし、非常食、飲料水も備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格に合わせたり、家族からの情報をもとに声掛けや対応を行っている。	利用者ひとり一人の尊重と、プライバシーを守る介護の在り方を職員間で話し合い、利用者一人ひとりに合わせた言葉遣いや対応に注意して取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については管理者が職員に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を優先し、分からない時は選択できるように対応を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居する以前の暮らしをなるべく続けるように対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族からの情報をもとにその人らしい身だしなみが継続できるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしゃべりしながら食事を楽しむように支援している。また、外出時に好みの食事を食べて頂くようにしている。	利用者一人ひとりの嗜好を把握して、ユニット毎に職員手作りの料理を提供している。、座ってもやしの根取り、いりこの頭取り等、利用者の残存機能に応じて一緒に行っている。行事食や調理レク、おやつレク、デリバリーやテイクアウトの利用、外食を楽しむ等、「食」を大切に支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に合わせて栄養面、水分補給に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底し、本人の能力に合わせた口腔ケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄能力やパターンをスタッフが把握し、トイレ誘導を行い、なるべくトイレで排泄が出来るように取り組んでいる。	利用者が重度化してもトイレでの排泄を基本とし、職員は利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、タイミング良く声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。また、夜間は、利用者の希望や体調に配慮して、トイレ誘導やポータブルトイレ、オムツやパット等を使い分ける等、柔軟に対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人に合わせ、水分、薬、食事にアマニオイルを使用し、快便出来る様に支援している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体状態に合わせた入浴方法で入浴がを嫌がらない様な取り組みを行い、気持ちが良い入浴が出来る様に支援している。	入浴は利用者の希望や体調に配慮しながら、週3回を基本とし、清掃の行き届いた清潔な浴槽に肩までゆっくり浸り、寛いでもらっている。入浴は、利用者とは職員が一对一で話が出来ると貴重な時間と捉え、コミュニケーションに努めながら楽しい時間を過ごしている。全身の皮膚の状況等のチェックも行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人睡眠パターンを把握し安心して入眠が出来る様に支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師から副作用や飲み方などの情報を伝達を行って身体、精神の変化の様子観察を行い、都度主治医へ報告し、変更、減量などの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に役割をつけ、ホーム内の一員となって生活出来る様に支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望に合わせた外出が出来る様に支援しているが、最近はコロナ感染などがあり、あまり外出する機会が減ったが、少しずつ外出の回数を増やしていく予定です。	新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら、積極的に外出を行っている。飾り山見学の後に外食を取って帰ってきたり、長崎の平和公園まで足を延ばしたりしている。敷地内の桜の木の下でのお花見、花火等、職員がアイデアを出して気分転換を図り、利用者の笑顔に繋げている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族と相談し、所持金を持たせて使えるように支援しているが最近ではコロナ感染があり、出来ないが今後買い物同行などの支援を再開したい。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人が携帯電話を持っているので、自身で電話が何時でもかけられるように支援している。また家族から手紙のやり取りを行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快を取り除くように環境整備を行っている。また、季節の野菜を食事に出したり、リビングや廊下に季節感があるような作品を展示している。	こまめな清掃や換気に努め、温度や湿度の調整やテレビ、ラジオの音量等に配慮して、利用者が心地よく過ごすことが出来るよう支援している。玄関や廊下、リビングルームは、季節毎の花や飾り物、制作物を掲示して、季節を感じる事ができる家庭的な雰囲気の共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時に居室で過ごしたり、好きな入居者同士で楽しくおしゃべりができるように配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく本人の家から家具や使い慣れたものや人形などを持って来て頂き、心地よい生活が出来る様に支援している。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者の馴染みの家具や寝具、身の回りの物、家族の写真等、大切な物を家族の協力で持ち込んでもらい、利用者が安心して穏やかに暮らせる環境整備に取り組んでいる。こまめな掃除、換気を行い、気持ち良く過ごせる居室である。畳の上にカーペットを敷く等、滑らないように安全にも配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立に向けた取り組みとして、役割、希望、選択を優先し個人の能力を発揮できるように努めている。		